

# 佑啓

ゆうけい

発行者  
 社会福祉法人 佑啓会  
 理事長 里見 吉英  
 〒290-0265  
 千葉県市原市今富 1110-1  
 TEL 0436-36-7611  
 FAX 0436-36-7612  
 編集者 広報委員会

## 地域からの贈り物

### 山口 喜男

「ふる里学舎家族会だより」の第四十六号の一面トップに、「ふる里学舎和田浦は令和三年度道路功労者表彰で国土交通大臣表彰を受賞しました。これは道路の美化や維持管理などに顕著な功績があった団体や個人に対して国や県、日本道路協会などが表彰している最高位のもので」と掲載されました。

分本位での思考しか持ち合わせない、そんな人ばかりが多数を占めたら福祉どころではなくなってしまう。しかし、赤いリボンに込められた思いは、ますます人のやる気に火をつける訳で、ちよつとした心配りは人間関係の潤滑油であることに、改めて気づかされた出来事でした。関係者の皆様、改めて深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

この記事をお読みになった保護者の皆さんや、房日新聞や広報MINAMI BOUSOUにも取り上げられたことで地域の方からも、いろいろな励ましのご連絡等をいただき恐縮をするばかりです。

一番うれしかったのは、きれいにラッピングした赤ワインの首に真っ赤なリボン「受賞おめでとうございます！」の一言が添えられていた事です。とても評価された気持ちになりました。

どうも最近の出来事を見ていると、自己主張ばかりを行う人騒がせな人物の話題が多いように感じます。自身は多くの人に支えられてに気づこうとせず、

独りよがり、謙虚さもなく、自



さて、福祉施設が厚生労働関係表彰ではなく、何故、国土交通大臣表彰をいただけたかその経緯をご紹介します。

ふる里学舎和田浦は二十年前の平成十四年安房郡和田町の平塚地区に入所四十名・ショートステイ

八名・デイサービス十五名、職員は二十四名でのスタートでした。当時はイノシシなどの鳥獣被害はありませんでした。今や日中でも体重六十キロを超えるイノシシが、瓜坊を連れて道路を散歩していることも珍しくありません。

先日は、子ダヌキが崖を登るものの登坂技術が未熟なためか、ある程度登ると力尽きるのか、爪を立てたまま滑り落ちてきてを繰り返していました。微笑ましい光景でしたが、今や作物などは金網で厳重に侵入を防御しないと、一晩で食い荒らされてしまいます。作物を巡る攻防はイタチごっこで人間様にとっては、部が悪い状態に陥っています。時とともに動物の生態も変化し、地域の人的環境も老化の進行や空き家も見られるようになってきています。

開所当初の平塚地区の総戸数は二十五世帯、地域の皆さんの結束力は堅く、昔から共助の関係が培われていたところ。この地域で事業を開始した以上、地域の方とのコミュニケーションは不可欠です。幸い体育会系の我が法人職員にとっては気質が合うところ

で、地域の方々には大変かわいがっていただきました。地域を支える一員として認めていただくために、地域交流会を始めとした各種活動を通じ、顔の見える関係作りから始めました。特にこの地区の牽引役を担っていた通称「平青会」正式名称は平塚青年会の皆さんとご一緒できたことは幸いでした。

晩秋の頃に行われる一泊二日の視察研修旅行での懇親会は、交流を深める格好の場でもあります。行程は六時学舎出発から翌日学舎到着後「なぎさドライブイン」で砂

つばらい。二日間で七日分の酒量。最近では皆さんの酒量はかなり減少傾向、反比例し内服薬が増量傾向となっています。しかし、令和元年房総半島台風(十五号)の倒木処理などの活躍を見ると、現役そのものの「まだまだ若造には・・・」という感じです。



では、宴会での一コマ。某在任主任は(現在は次長)主に余興担当で、宴会場に準備されている数々の貸衣装の中から「白鳥の湖」のバレエダンサーの衣装(故志村けん氏が8時だよ!全員集合で使っていました)をチョイスし、カラオケで一曲、拍手喝采、二次会は勘弁してと風呂場に身を隠すも発見され会場へ戻り皆さんと懇親。一夜にして名前が売れました。

現在、青年会から新たに「ふる里クラブ」が誕生し、今年度はコロナ禍の中をかいぐり、十九名で日帰りミステリーツアーに参加し懇親を深めています。

さて、前述した話題が受賞とどんな関係があるかという、今回の受賞は地元の皆さんの推薦でいただくことができたからです。「ふるさと美化運動」という清掃活動が旧和田町時代から毎月第一日曜日に開催されており、開所当初から仲間に加えていただき、参加を希

望する利用者と職員とで道路脇の草刈りを平塚の皆さんと行ってまいりました。そして、家族会は毎月の帰省で帰舎日の林道整備を、職員は気象状況に応じて豪雨後のU字溝掃除、強風の後の枝や落ち葉の清掃、降雪後の雪かきや凍結防止剤の散布、ガードレール清掃など状況に応じた環境整備を月1〜2回行っています。こうした取り組みを評価していただき、平成十七年七月の鴨川整備協議会会長表彰をはじめ、平成二十四年二月平塚農家組合感謝状、同年六月千葉県道路協会会長表彰、平成十九年八月千葉県知事感謝状、令和元年六月千葉県緑化推進委員会表彰などを頂戴しました。

日頃から地域の活動に参加することで、事業内容を理解してもらおう機会になったり、利用者や職員・家族が交友を深める場になったりと、日常的にあった交流の場は大きな財産となり、このような形になったと感謝しております。



和田浦の設置は、地元自治体が県へ施設誘致を協議したことがきっかけとなっています。なぜ施設誘致が必要だったかというと、昭和六十年代から始まった急激な高齢化と過疎化を、何とかしなければ

ばならないとの政策があったからだと思えます。進行をくい止めるための産業振興策としての誘致は、旧和田町故中山町長が牽引していただきました。

故中山先生は、信念をもって決定した政策は必ず実行するという熱意溢れる人物で、優しい笑顔と小さなからだつきからでは、想像がつかない一本筋の通った粘り強い政策実行の能力を持った方だと感じておりました。こうした出会いがなければ、佑啓会との縁は存在しなかった訳です。ちなみに、「ふるさと美化運動」は中山町長の発案で始まったと伺っています。市町村合併で南房総市となりましたが、今でも続く旧和田町の素晴らしき共助システムです。誘致の決定から反対運動など経て平塚の皆さんに受け入れられたことで、今や2拠点の福祉施設に七十四名が働く事業所へと成長することができています。

理事長は、受賞後新聞記者のインタビューで「普段からお世話になっていて地元の皆様に何か貢献できないかと始まった道路清掃活動。今後も地元と共に歩んでいける施設にしたい」と話しておりました。今後も我々が得意とすることをしっかりと行っていくことで、ますます存在感を高めたいと思います。早く以前のようにグラウンドゴルフや地域交流会で地元の皆さんと懇親の場を持てるように、コロナ禍の収束を期待しております。今後地味ではありますが、地道に努力を重ねて参りますので宜しくお願い致します。(ふる里学舎和田浦 施設長)



# 成人を迎えて (和矢おめでとう)

## 丸岡 信行

末っ子の和矢が今年二十歳になる。生まれたころは障害を持つ兄が大変な時期であり、赤ん坊の頃はその影で、あまり手が掛かったという記憶がありません。姉が面倒を見てくれたこともあり大人しく遊んでいた気がします。

兄がようやく立ち着いたころ、徐々に頭角を現し、動きが早く何処にでも飛んでいく、いわゆる多動が目立ち始め、目が離せなくなりました。高いところから平気で飛び降り口や頭を怪我して何針も縫うことも。我々から逃げ出し追いかけるとまた転んで怪我して救急車。また、逆に追いかけた祖父が転んで顔を怪我して血だらけに。それを見て逃げた本人は大泣き状態。この子は本当に大丈夫か。



二歳の頃です。休みの日によく祖父が車で連れ出してくれて、車に乗せた瞬間ドアをロック。外からドアを開けられず、スペアキーも持ち合わせてなく、外の大人は大騒ぎ。車中の和矢はハンドル握って運転モード。外から窓をたたいて和矢開けろ！と叫んでも本人気持ちよくハンドル操作。仕方なく一九番、消防車到着で近所も何事かと大騒ぎ。救

急隊到着とともに自分で窓を開け何事もなかったかのように。

養護学校に上がってもその行動は止まらず。運動会ではリレーのアンカーを務めることに。あとはトップでゴールテープを切るだけ。と、そのゴール手前で信じられない光景が。急にコースアウトして何処かに逃げてしまった。当時私達は必死でしたが、今は懐かしく思い出しては家族で笑っております。



いつからか、彼は鉄道が大好きで、スマホでいろいろな駅を検索している。電車に乗って小さな旅も大好き。プラレールもたくさん持っています。私も休日には線路沿いを二人で散歩しながらの会話を楽しんでます。自分の思いが上手く伝わらないことでイライラすることもありますが、一生懸命話をしてくれま

そんな和矢も今年二十歳を迎えます。一番小さかった子が我が家で一番大きく成長し、動きも落ち着き、もう追いかけることもなくなりました。話し好きで声も大きく、我が家のムードメーカーとなつています。ふる里学舎さんには二十歳のお祝いをホテルで催し、貴重な思い出をつくっていただき本当に感謝しております。同級生のゆりさんとの再会もとっても嬉しかったです。



ふる里学舎さんでお世話になってから、充実した毎日を過ごさせてい

ただいているようで、毎日の作業内容、昼食やおやつメニューを報告してくれ、彼の中ではふる里学舎さんでの生活が最優先です。あすみが丘の職員の皆様には子供に寄り添った支援をいただき感謝しありがとうございます。バドミントンが好きだとお伝えすると相手をして下さりミュージカルへ通っているとお伝えすると公演日を楽しみにして下さいと聞いております。和矢があすみが丘大好き！と堂々と話しているのも納得です。



トーチを持って里見理事長と記念写真

頑張れ！和矢

## 目標に向かって！

### 弓場 洸紀

(ふる里学舎あすみが丘 保護者)

第二十五回ゆうあいピック駅伝大会



【結果】  
クオーターの部 準優勝  
エイスの部 優勝  
(内2名が区間賞)  
ロードレースの部 準優勝

輝かしい成績に至るまでの彼らの軌跡を書かせていただきたい。令和三年度四月から福祉型障害児入所施設「ふる里学舎蔵波青年寮」が開所した。中学一年、高校三年生までの個性豊かな二十名の子供も達が一ツ屋根の下で、同じ釜の飯を食べ

思春期真っ只中の子ども達のエネルギーは強く、このエネルギーを発散する方法は何かないかと職員は常に模索する日々であった。その中で部活動を開始しようとの話題が上が

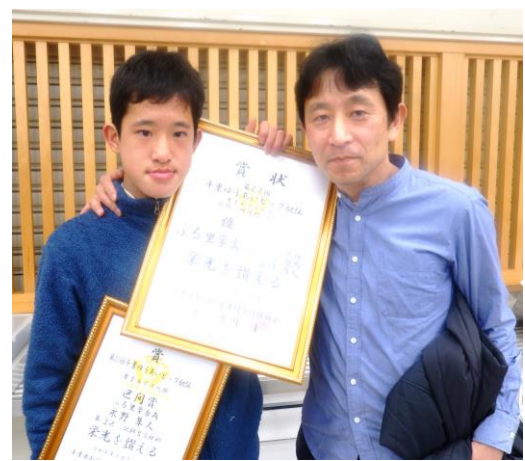
私は中高の六年間を陸上競技にささげていたため、陸上担当となった。子ども達のエネルギーを発散したいと職員目線で考えて開始した部活動であったが、最初の内は部活動への参加を促してもゲームを優先したい

大会で良い結果を残したいと大きな目標が出来た。そうすると様子は一変した。ゲームを優先していたのが嘘だったかのよう

提案を頂いた。どうせ出るなら法人で選抜のチームを組もう。勝ちにくいぞ。子ども達にこの話をすると、自分たちの最大のライバルと思っていた千倉の子供も達

一月二十三日(土)、ゆうあいピックは予定通り開催された。コースの下見をすると、実感がわいてきたのか、皆緊張した表情を

慣れない執筆を終えた。気付けば入職して三回目の春がすぐそこまで新たな出会いに胸を膨らませながら



また、接戦の末、理事長の目の前で逆転し、準優勝を遂げたクオーターの部。中学一年生ながら準優勝したロードレースの部。数々の爪痕を残し、大会にふる里学舎の名前を刻むことができた。

今、子ども達は新たな目標に向けて練習を頑張っている。三月の陸上大会、五月のスポーツ大会と、大忙しだ。かつて、ゲームを優先し部活動に消極的であった面影は見られ

慣れない執筆を終えた。気付けば入職して三回目の春がすぐそこまで新たな出会いに胸を膨らませながら

寒さ厳しい冬ももうすぐ終わり春がすぐそこまでやってきました。良い兆しが見え隠れする昨今ですが、佐啓会は今年も変わらず利用

## 編集後記

支援員 清野 さくら